

【樹木の部屋】

ナツツバキ (ツバキ科ナツツバキ属 *Stewartia pseudocamellia*)

和名: ナツツバキ (夏椿) **別名**: シャラノキ (娑羅樹) **英名**: Japanese stuartia

ツバキ目 落葉高木 **原産地**: 日本、朝鮮半島

花言葉: 愛らしさ、愛らしい人、はかない美しさ、哀愁 **花の色**: 白



← 写真-1 ナツツバキ

撮影日: 2015 年 06 月 20 日

撮影場所: 矢田寺 (大和郡山市) にて

撮影者: M さん

→ 写真-2 ナツツバキ

撮影日: 2015 年 06 月 20 日

撮影場所: 矢田寺

(大和郡山市) にて

撮影者: M さん



矢田寺は、あじさい寺とも呼ばれ、アジサイを求めて訪れる参拝者が多い寺です。小生も、久方振りにアジサイを求めて参拝。境内に入り、最初に大門坊にお参りした際、大門坊正面右側に、双樹の名前通りに 2 本、ヒッソリと育っているのを、見かけました。大門坊を訪れる方も少なく、ほとんどが素通り。おかげで、静かな雰囲気鑑賞することができました。

ナツツバキは、夏に清楚な花を咲かせ、涼しげな風情が好まれます。朝に開花し、夕方には落花する(一日花)ことから、盛者必衰の言葉通り、はかないもののたとえとされています。また、ツバキ科の中でも数少ない落葉樹です。

樹皮は帯紅色でツルツルしており、地方によってはサルスベリ(猿滑り)と

呼ぶと所もあるそうです。

沙羅は、お釈迦様が亡くなられた時、その四方を囲んでいた樹木で、それぞれに 2 本ずつ、対になって生えていたことから沙羅双樹と呼ばれるようになったそうです。ただし、実際にはお釈迦様のおられたインドの沙羅樹（さらのき）は日本には自生していません。日本では「夏ツバキ」のことを沙羅樹と呼んでいます。娑羅樹（さらのき）に擬せられ、この名がついたといわれています。

< ちょっと一言 >

***サラソウジュ(フタバガキ科ショレア属 Shorea robusta)**

和名：サラソウジュ（沙羅双樹） **別名**：沙羅の木（シャラノキ）

英名：Sal tree

アオイ目 落葉高木 **原産地**：インド

花言葉： **花の色**：白、乳白

***東林院（とうりんいん）～沙羅双樹の寺**

京都市右京区花園妙心寺町にある臨済宗妙心寺の塔頭の一つ。
樹齢 300 年の沙羅双樹の銘木で知られる。通称は沙羅双樹の寺。